

四谷の

千枚田だより



第 229 号



第二十七回 全国棚田(千枚田) サミット

十月一日、二日、滋賀県高島市で開催されたサミットに保存会から高橋孝行、松下 誠、原田英史、丸地典利、田中幸夫、高橋義昌、小山舜二はコロナ禍で三年ぶりに開催されるサミットに心を躍らせ、早朝六時に千枚田をレンタカーで出発。九時半のオープニングから参加した。

オープニングでは児童たちの「棚田へ行こう」の熱唱や学生たちの「高島市の自然と私の未来」と題した朗読が披露された。

事例発表「中山間地域の取組と活動紹介」と題して滋賀県農村振興課の職員から中山間地域の現状として、販売農家数は二十年間で半分に減少。農家就業者の半数以上は七

第27回 全国棚田(千枚田) サミット

テーマ 棚田をつなぐ人のかけ橋
～びわ湖を育む清流の輪～

開催地: 滋賀県高島市

開催日: 10月1日(土) 10月2日(日)



十歳以上。・三十%以上の農家が耕作放棄地を有する。取組では「しがるふるさと支え合いプロジェクト」として企業や大学を巻き込んだ実践活動、お試し移住など、成果として農地や環境保全、地域資源、学びの場など農福連携が創出された。等々、大きな成果が発表された。

基調講演

山路永司氏 棚田学会会長

演題 「棚田地域の保全と継承」

十九分に及ぶ膨大な資料(貴重)を一時間あまり講演された。その内容の一部を紹介する。

① 平成十二年に開始された中山間地等直接支払制度の交付金が支払われた面積が十五万畝で、現在でも支払い面積にあまり変動がないことから本施策の効果は高く評価されている。

② 農業・農村の多面的機能(洪水防止・水源涵養・気象緩和・保健休養等々の機能)に加え生物多様性の保全を重視したい。

③ 傾斜20以上の水田群落。棚田面積の減少の最大理由は労働生産性の低さ(農作業のきつさ)である。(単位面積あたりの農作業時間で二〜三倍にもなる。)

④ (棚田観光)、(棚田と芸術)、(棚田米の価値)棚田独自の環境、ふるさと納税返礼品など。

その他に「棚田百選から棚田遺産へ」、「保全と継承」などが語られた。

開催にあたって

現在の棚田地域は人口減少や高齢化の影響、地理的不利性などから棚田の保全はもとよりコミュニティの維持が困難な状況になってきており、集落単独による状況の打開は容易ではない。この様な中で、従来の姿を維持するために地域に出来る新たな可能性を探り、そのカギとなるのが「人のつながり」。地域内、集落間、都市部、異世代と様々な人がつながり、国民の財産である棚田を守り、そこに暮らす人々を守るための取り組みを参加者と一緒に考え、あらためて棚田の持つ価値、地域の持つ可能性を見つめ直すため「第二十七回全国棚田(千枚田)サミット」を開催する。

第一分科会 棚田を見守る「人」が芽生える〜関係人口の創出と外部との連携〜 **第二分科会** 棚田に根付く「価値」を繋げる〜地域産業の振興と次世代への継承〜 **第三分科会** 棚田で囲む「くらし」を感じる〜農山村の魅力的体験と移住促進〜 **特別分科会** 棚田まもりびとミーティングの四分科会が、それぞれのコーディネーターとパネリストで構成され、議論された。
保存会全員は棚田まもりびとミーティングに参加。(つづく)

棚田まもりびとミーティング

全国各地の棚田で取り組まれて
いる地域振興や保全活動について、
参加者と一緒に発表しあい意見交
換が成された。

コーディネーター 中島峰広氏
NPO法人棚田ネットワーク理事

中島先生は棚田研究の第一人者
でもあり、当地で平成十七年に開催
された第十一回全国棚田(千枚田)
サミットの開催十周年記念シンポ
ジウム「地域の宝 これからの千枚
田保全について探る」みんなで語
ろう千枚田」にもお招きした由緒
ある先生である。

パネリストとして新潟県十日町
の池谷・入山集落を中心に地域おこ
しの活動に取り組んでいる山本浩
史氏、滋賀県大津市の仰木地域で魅
力ある地域の創造を目標に取組ん
でいる上坂雅彦氏の事例発表を基
に意見交換を展開した。

小山は、皆さん、得てして綺麗ご
とが多いが、棚田を守る百姓は課題
尽くめで、決して生易しいものでは
ない。今年の事例として、開花期の
受粉不良(日照不足)、登熟期の長雨
が災い、稲刈りもままならず、収穫
は四割減。それに追い打ちをかける
ようにニホンジカ、イノシシ、サル
による被害、特に今年はサルの被害
が大きく、シカやイノシシは防護柵
である程度は防げるがサルに於い
ては全く防ぎようがない。と発言、

多くの賛同者を得た。

現地見学会

「畑の棚田」コース

比良の山裾に幾何学模様様に広が
る三百五十九枚の石積の棚田。滋賀
県で唯一「日本の棚田百選」の指定
棚田である。



現地見学の印象として、「四谷の
千枚田」は景観、保全管理等々、優
れていると感じた。(手前味噌…)

獣害

千枚田の百姓はイノシシ、シカ、サル
の被害で大変な目になっている。
イノシシは豚熱(豚コレラ)の発症
で減少、昨年はほとんど被害は無か
ったが、今年の盆過ぎ頃から急激に
出没(十頭駆除)、稲ハザに大きな被

害をもたらした。(写真右上)

ニホンジカは夜監視に廻ると五
六頭が目視される。侵入防止柵を
設置しているものの未設置の方向
からの侵入被害が大きく、跳躍力も
高く、電気柵を飛び込み侵入するな
ど、イノシシより困っている。

サルは今までも被害はあったも
のの今年は千枚田全域に出没、稲穂
をすっこかれるし、食べられるし、
たまったものでない。サルは身軽で
追っても、追っても限がない。サル
がでたら、お終いだ…にならないこ
とを願う。(写真右上イノシシの被
害、左上シカとサルの被害。右下サル
の軍団、左下海苔網に絡んだシ
カ)



稲刈り

九月十六日、鳳来寺小学校五年生
(十一名)による稲刈りが行われた。



・九月十九日、ヤマサちくわの稲刈
りを原田英史(理事)の指導で佐藤
社長、従業員(十五名)で行った。
・十月三日、JA愛知東こども農学
校の稲刈りを、雨天続きのため農協
職員で実施した。

視察対応

・九月十七日、愛知大学地域貢献グ
ループ(五色)を受入れ、対応した。
・九月二十七日、知立市商工会女性
部(十二名)の研修対応をした。

行 令和四年十月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二